

< 第 3 学年 > 単元指導計画

時	1	2	3	4	
目標	乗法九九を一回適用する除法（包含除）で、あまりの意味と立式と答えが分かる。	あまりのある除法（包含除）の計算方法がある。また、除数の大小関係が分かる。	等分除の場面においてもあまりの意味が分かり、立式して、その答えが分かる。	あまりのある除法の確かめの仕方が分かり、確かめをしながら正確に計算できる。	
学習展開	<p>（問題） 花見だんごは、一本のくしにおだんごを3こさします。 おだんごを20こ作ると、くしは何本できるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団子を各自作り、くしに刺して花見団子を作る。あまりができることを明らかにする。 ・ 花見団子は、6本できて2個あまることを明らかにする。 <p>おだんごのくしの式と答えの書き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の除法と似ていることを明らかにし、式を明らかにする。 ・ 式の答えを求める。（式の表し方を学習し、言葉の式に当てはめる。） ・ 問題の答えを求める。 ・ 除法には「わりきれぬもの」と「わりきれぬもの」があることをまとめる。 	<p>（問題） 花見だんごのくしを確かめの式で求めるとどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3の段の九九を使って解くことを明らかにする。 ・ 言葉の式を確認し、式の成り立ち方を明らかにする。 ・ 答えの6本から $3 \times 6 = 18$、あまりは2こなることを明らかにする。 <p>5人分 $3 \times 5 = 15$ 5こあまる 7人分 $3 \times 7 = 21$ 1こたりない それぞれ書いたものを示す。</p> <p>5人分、7人分はよいかどうかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5人分では、まだ1人分分けることができることを確認する。 ・ 7人分では、1個足りないために、答えが成り立たないことを確認する。（除数 \times 商 $>$ 被除数となっていないことを明らかにする。） ・ あまりは、いつもわる数より小さくなるようにすることをまとめる。 <p>問題演習を行う。</p>	<p>（問題） おだんごが34こあります。6人で同じ数ずつ分けると、1人分は何こになるでしょう。また、なんこあまるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求める式を明らかにする。 $34 \div 6$ 34 \div 6の計算をして、1人分のだんごの数とあまりのだんごの数をもとめよう。 ・ 計算の答えを自分なりに確認する。 ・ 6の段の九九を用いた解き方では、$\times 6$の式で、6の段の乗法九九を使い、34より大きくならずに一番近い数を探せばよいことを明らかにする。 ・ 問の答えを確認する。 ・ おはじきを用い、問の答えを明らかにする。 <p>問題演習を行う。</p>	<p>（問題） 33このキャンディーがあります。一人に7こずつ分けると、何人に分けられるでしょう。また、何こあまるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求める式を明らかにする。 $33 \div 7$ ・ 計算の答えを自分なりに確認する。 $33 \div 7 = 4$ あまり5 $33 \div 7 = 4$ あまり5のたしかめの式を考えよう。 ・ $7 \times 4 + 5 = 33$（1人分のキャンディーの数）\times（人数）+（あまりのキャンディーの数）=（全部のキャンディーの数） ・ 図やおはじきを用いて立式の形を明らかにする。 <p>問題演習を行う。</p>	
評価規準	関心・意欲・態度	・あまりのある場合も、既習の除法と同じように立式し、答えを求めようとする。			
	数学的な考え方	・あまりのある場合も、割り切れる除法と同じように乗法九九を活用して解く方法を考える。	・余りのある場合も、割り切れる除法と同じように乗法九九を活用して解く方法を考える。	・余りのある場合も、割り切れる除法と同じように乗法九九を活用して解く方法を考える。	・余りのある場合も、割り切れる除法と同じように乗法九九を活用して解く方法を考える。
	表現・処理		・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。	・立式し、自分なりに答えを求めることができる。 ・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。	・立式し、自分なりに答えを求めることができる。 ・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。
	知識・理解	・あまりのあるわり算の式表示を理解できる。 ・「わりきれぬもの」、「わりきれぬもの」の用語の意味が理解できる。	・あまりと除数の大小関係について理解できる。	・あまりと除数の大小関係を理解することができる。	・あまりのあるわり算の答えを求める確かめの式を理解できる。
算数的活動	・団子を作り、問題の答えを考えることができる。	・おはじきや図を使い、問題の答えを考えることができる。	・おはじきや図を使い、問題の答えを考えることができる。	・おはじきや図を使い、確かめの式を考えることができる。	

< 第3学年 > 単元指導計画 (その2)

時	5	6	7	
目標	あまりのある除法を適用し、問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決することができる。(本時)	色々なあまりのある除法の問題を解決し、学習の習熟を図ることができる。	色々なあまりのある除法の問題を解決し、学習の習熟を図ることができる。	
学習展開	<p>(問題)</p> <p>ボールが 28 こあります。ボールが 5 こ入るはこがあります。ボールを全部はこの中に入れるためには、はこはいくつひつようですか。</p> <p>・箱の数を求める式を立て、計算の答えを求める。 $28 \div 5 = 5 \text{ あまり } 3$</p> <p>ひつようなのはこの数を考えよう。</p> <p>・問題の答えを各自で考えながら求める。</p> <p>(児童の考え方は、本時の展開を参照)</p> <p>・ボール全部が箱に入らなければいけないから、あまりのボールも入れるために箱がもう一つ必要であることを明らかにする。 <u>答え</u> はこは6つ必要</p> <p>・はこの数を式で表す。 $5 + 1 = 6$</p> <p>練習問題</p>	<p>色々なあまりのあるわり算の問題を解こう。</p> <p>・乗法九九 1 かい適用のあまりのある除法の問題を解く。 「$32 \div 9$、$22 \div 3 \cdots$ 等々」</p> <p>・あまりのある包含除の適用 「30mあるテープを、一人に4mずつ分けます。何人に分けられるでしょう。また、何mあまるでしょう。」 式 $30 \div 4 = 7 \text{ あまり } 2$ <u>答え</u> 7人に分けられて、2mあまる。</p> <p>・あまりのある等分除の適用 「花が26本あります。この花を3人で同じ数ずつ分けると、1人分は何本になるでしょう。また、何本あまるでしょう。」 式 $26 \div 3 = 8 \text{ あまり } 2$ <u>答え</u> 1人分は8本で、2本あまる。</p> <p>・あまりのある除法のあまりの処理の適用 「5人乗れる自動車が何台あれば、17人の人が全部乗れるでしょう。」 式 $17 \div 5 = 3 \text{ あまり } 2$ $3 + 1 = 4$ <u>答え</u> 4台</p>	<p>色々なあまりのあるわり算の問題を解こう。</p> <p>・あまりと除数の大小関係の問題を解く。 「計算のまちがいを見つけて、正しく計算しましょう。」</p> <p>・乗法九九一回適用の除法の割り切れるか、割り切れないかの判断。 「わりきれるか、わりきれないかをいみましょう。」</p> <p>・生活場面に即したあまりのあるわり算の問題を作り、解くことができる。</p>	
	関心・意欲・態度		・自分から進んで問題を解こうとする。	・自分から進んで問題を作り、解こうとする。
	評価規準	数学的な考え方	・問題に着目し、余りの処理について考えることができる。	
	表現・処理	・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。	・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。	・具体的な場面での割り切れない除法の問題を解くことができる。
知識・理解	・問題によっては、余りの処理をしなくてはいけないことが分かる。	・確かめの式を用い、答えを確かめることができる。	・確かめの式を用い、答えを確かめることができる。	
算数的活動	・余りを問題場面に立ち戻りながら、おはじきや図を使い答えを考えることができる。			

